

# 経済地理メモ - 社会主義国編 -

## ③ハンガリー

資料情報係  
INFORMATION SERVICE SECTION

国名 ハンガリー人民共和国 (Magyar Népköztársaság)  
面積 9.3万 km<sup>2</sup>  
人口 1,100万人  
首都 ブダペスト (Budapest)

### 国土

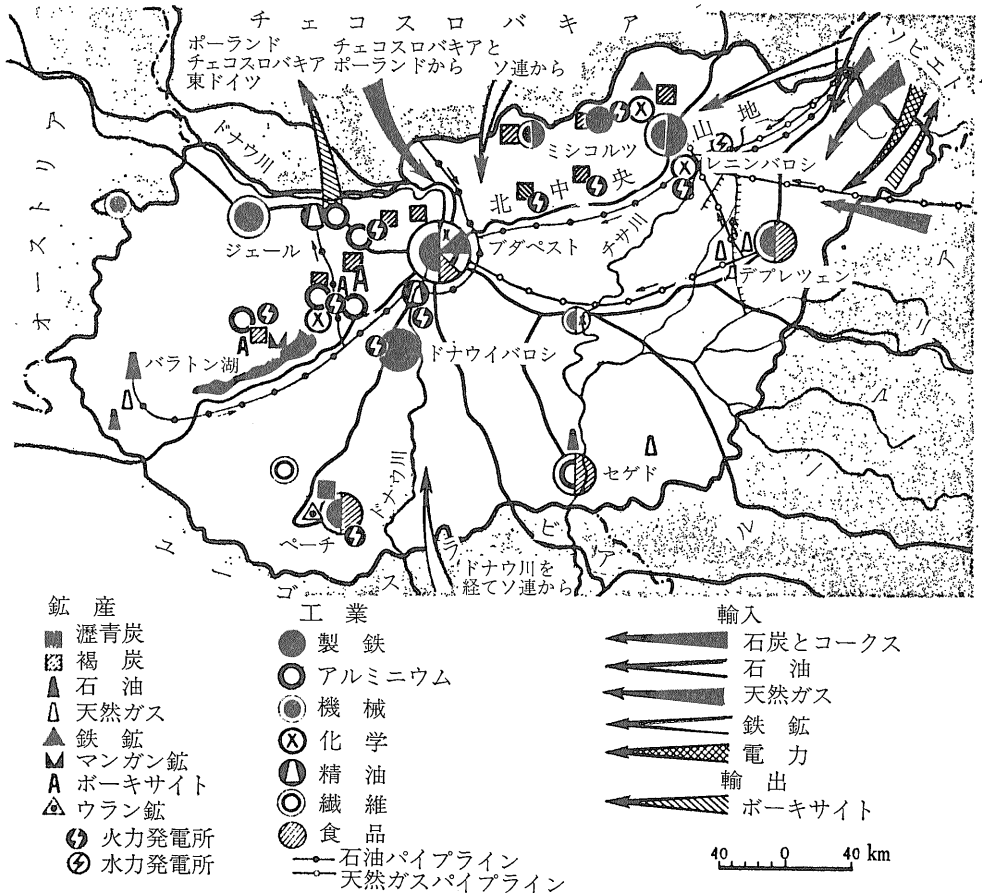
ハンガリーはヨーロッパの中央部にあって 外海から遠い。ヨーロッパ各地を結ぶ重要な交通路が交差しドナウ川の水路はハンガリーと隣接諸国を連絡して黒海に流れこむ。その隣接諸国は オーストリアを除くとすべて社会主義国である。

### 人口

人口の自然動態はチェコスロバキアとよく似ていて出生率が低く 人口は漸増で そのため労働人口の不足が将来深刻になると考えられ 国の対応が急がれている。人口密度は 118.3人/km<sup>2</sup>で チェコスロバキアやポーランドと同様であるが 両国の場合と違って 人口分布がかなり均一である。最大の都市はブダペストで 人口は 200万人 他の都市は大半が人口10—20万人である。

### 経済

国民経済の工業化が最近の経済政策では重点とされとくに重工業の比重が上昇しつつあるが アルミニウム



製錬を除く電錬・金属製錬部門は未だしである。農業と食品工業は発達している。

鉱工業

ハンガリーの天然資源は他のヨーロッパの大部分の国々に比較すると工業の発展を保証するには十分でない。石油と天然ガスの埋蔵量は需要を満たすにはほど遠く鉄鉱はほとんど存在していない。水力包蔵量も比較的少ない。大量に存在する鉱物資源はボーキサイトだけである。

エネルギー資源は国内産の石炭が基礎とされメチュク炭田区の瀝青炭と中央山地に数多い炭田の褐炭・樹炭が使用されているが品質の悪い褐炭を主として坑内堀に頼らなければならないという採炭条件下にあるためとくに最近の褐炭生産量は伸びなやみである。石油と天然ガスは昔は南西部で生産されていただけであるが今では東部のデブレツェン地区や南部のセグド地区でも生産されるようになった。しかし石油消費量のおよそ70%は輸入に依存しそのほとんど全量が石油パイプ

ライン《ドルージュバ》と《ドルージュバ-2》を通じてソ連から送られている。さらに天然ガスもソ連とルーマニアから輸入され電力の不足分もソ連から入手する一方原子力発電所(出力44万kW/時)がパクシ市に建設中でありチェコスロバキアの協力のもとにドナウ川での水力発電所(出力85万kW/時)の設計が完了し近く着工されようとしている。

ハンガリーではボーキサイト鉱業とアルミニウム精錬が発達していてボーキサイトアルミナ金属アルミニウムは重要な輸出品目となっている。しかしながら金属アルミニウムの生産増は電力の不足と電力原価が高いために望み薄である。

製鉄は主として輸入鉄鉱と輸入燃料を用いて操業されている。ドゥナウイ製鉄コンビナートがハンガリー最大の鉄鋼基地でソ連の手で建設され現在では新都市としてドゥナウイパロシ市が出現している。

非鉄金属冶金工業には今のところみるべきものはないが最近斑岩銅鉱床が発見されたのであるいは銅・モリブデン鉱業が新たに発展するかも知れない。

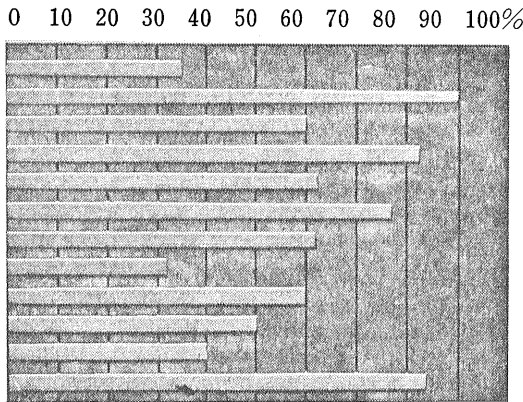
我が国との関係

ハンガリーは1955年12月に国連に加盟し1959年8月に我が国と国交を結び相互に大使館を設置した。西に10,000km以上へだたるとはいえハンガリー(時差8時間)と我が国との関係は社会体制の違いが大きく影響して緊密ではない。

貿易は1977年の実績で往復6,038万ドル(日本の貿易総額の0.04%)日本からの輸出4,870万ドル(日本の対外輸出額の0.065%)日本への輸入1,168万ドル(0.02%)にすぎずしかも出超の割合が大きい。

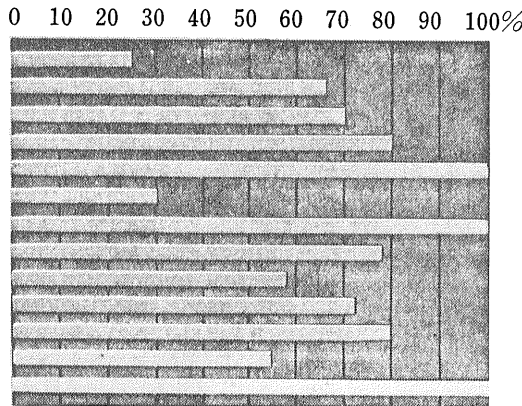
輸出

- ボーキサイト
- アルミナ
- フライス盤
- ジーゼルエンジン
- 客車
- バス
- オートバイ
- テレビジョン
- 蛍光灯
- 医薬品
- 綿布
- 野菜・罐詰



輸入

- 電力
- コークス
- 石油
- 鉄 鉱
- 燐 鉱
- 化学肥料
- ゴム
- 化学繊維
- 羊毛
- 皮革
- 木材
- セルローズ
- 綿花



第2図 ハンガリーの主要輸出入品目と需給率